

令和7年度第1回三鷹市商工振興対策審議会 会議録

- 開催日：令和7年11月13日（木）午後4時00分から午後5時30分まで
- 会場：三鷹市教育センター3階 大研修室
- 出席委員：上原委員、額田委員、姜委員、佐伯委員、高橋委員、倉林委員、内藤委員、酒井委員、吉田（純）委員、蒲谷委員、北委員、大倉委員、太田委員、岩見委員、中泉委員、大城委員
- 傍聴者：なし

1 開会

【委嘱状の交付】

- ・席上配付にて各委員に委嘱状を交付。

【新任委員より挨拶】

- ・佐伯委員、高橋委員、倉林委員、内藤委員より新任挨拶。

【出席状況の確認】

- ・開会時点で委員定数20名中13名の出席をもって、過半数を超えていたため、三鷹市商工振興対策審議会条例第6条第2項に基づき会議は成立。

【会議の公開及び傍聴人の決定について】

- ・三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例第6条に基づき、会議開催の事前公表を令和7年11月4日よりホームページにて実施し、11月11日午後5時まで傍聴希望者を募集した。
- ・傍聴希望者なし。

【会議録について】

- ・三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例第9条、第10条に基づき会議録を作成し、決裁後閲覧に供する。

2 議事

【報告事項（1）三鷹市産業振興計画2027の進捗状況について】

＜事務局より説明＞

- ・資料1及び2により説明

<質疑・応答>

[委員]

- ・資料2のスライド7ページ目「施策の柱②創業環境の整備及び支援の拡充」について、目標値に年度表記がないのはなぜか。また、特定創業支援等事業による創業者数の目標値を24人としていることの根拠は何か。三鷹産業プラザ新創業支援施設利用者数の令和7年8月～9月の現状値1,177人は延べ人数か。年間の目標値5,000人は少ないのではないか。

[事務局]

- ・年度表記については、他の指標と同様令和9年度末の目標値である。特定創業支援等事業による創業者数の数値については、計画策定時の創業者数7人から伸びを勘案し24人を目標値とした。令和6年度末実績の20人は想定を超える伸びがあった。また、三鷹産業プラザ新創業支援施設利用者数の目標値5,000人については、延べ人数であり、従前に三鷹産業プラザ3階で開設していたコワーキングスペースの実績に基づき目標値を設定した。三鷹市創業支援＆コワーキングプレイスM-PORTを三鷹産業プラザ1階に開設したことにより、想定以上にご利用いただいている状況である。目標値にこだわらず、より多くの方にご利用いただけるよう今後も周知徹底していく。

[委員]

- ・三鷹光器株式会社の地産地消エネルギー（小型風力発電等）の進捗はどうか。
- ・北野、新川、中原地区は支援が行き届いていないのではないか。
- ・百年の森構想に関連し、猛暑対策として緑が大切であると考える。緑を生かした高齢者向けの移動販売所等があるとよいと思う。

[委員]

- ・三鷹光器株式会社は、医療機器販売を中心に様々なアイデアを持ってご活躍されている。屋上に風力発電を設置し、実験をしている段階と伺っている。

[会長]

- ・三鷹は各地域にそれぞれ緑と農地と水辺があり、それを商業と結び付けて三鷹らしいビジネスができないかというご提案は興味深い。市民活動で商店街・個店に働きかけるような活動が生まれてくるとよい。

[委員]

- ・資料2のスライド7ページ目「施策の柱②創業環境の整備及び支援の拡充」について、特定創業支援等事業による創業者数については市内での創業者に限らないか。

[事務局]

- ・創業した場所については、市内に限らない。市の特定創業支援等事業を受講された方の中で実際に創業した方の人数である。

【議題（2）今後の産業振興施策について】

<意見交換>

[会長]

- ・1まちとしての商店街の発展への取組
 - 2創業や事業承継へのサポート
 - 3市民が誇れる都市観光の振興に向けた情報発信のあり方
- を意見交換の議題とする。

[委員]

- ・最近は工場等で土地が狭いため郊外に移転したいという話を聞く。そのような工場を新川・中原のエリアなどにうまく誘致できればよいのではないか。また、市内の優良企業が、東京都内でもより西部に移転してしまうことを防げるとよい。地域としての工夫ができないか。

[委員]

- ・製造業を営む自社は住宅街の中で創業した。当時は騒音や振動の問題で事業の継続が困難であったが、同様の企業が結集し、工場アパートである三鷹ハイテクセンターが設立されたことにより、郊外への移転を防ぐことができた。市内からの企業の流出の歯止めになると思うため同様の施策を引き続きお願いしたい。

[副会長]

- ・都市型農業や緑は重要である。北野・中原地区には農地が多くあるため、農家の方々と意見交換をしていく。
- ・毎年最低賃金が引き上げられている中、大企業は対応力があるが、中小企業は最低賃金の引上げへの対応は厳しい状況である。そのために効率的に事業を実施する必要がある。市と相談しながら、中小企業等産業活性化補助金等の事業を通じて市内にお金が回るように実施していく。

[委員]

- ・三鷹は地盤が強固で情報系企業が多いと聞く。今後の誘致の見通しはどうか。

[事務局]

- ・地質・岩盤が比較的強固であることは一般的に知られている。かつて市で実施していた三

鷹市都市型産業誘致条例に基づく取組により情報系企業を支援した経過がある。現状については、用地が限られていることもあり、今すぐ情報系企業が来るという情報はない。都市農地保全も重要であると認識しており、地域に合った産業と生活の共生・共創が三鷹で目指すべき産業の在り方であると考えている。

[委員]

・情報系企業については、三鷹は地盤が強固であるだけでなく、電力系統が多重化しているため、停電しにくく、データセンターを置くのに適した土地であると言われている。一方で、IT関係については誘致しづらいと考える。人を採用するなら都市部に、そうでなければ地方に移転してしまうことから、三鷹はどっちつかずの立地であり、誘致は難しく、産業として基盤になるかというと微妙である。発電までセットになれば、AI等が一大産業になりうる可能性はある。

[会長]

・都心で働くIT関係の方は、デジタルワークで集中力を必要とされたり、クリエイティブな発想を必要とするため、緑・自然の中で過ごす時間が貴重である。企業としての誘致は難しいかもしれないが、ITの方は在宅ワークも多いので、そのような方々を住民として受け入れ、緑の中で居住していただくという形で生活と産業の資金循環を作れるかもしれない。

[委員]

・自宅近くに都市型農業を実施されている方がおり、市民向けの貸農園を実施していたが、運営が難しくなったため閉園を検討したところ、農園を借りていた方々から、日頃ITの仕事ばかりでPCに向かっていて、この場が憩いの場となっていると閉園を反対されていた。都市型農園とITの相性の良さがある。

・中小企業の最低賃金を引き上げることが課題であると思うが、裏返すと事業者は人手不足を感じていると思う。中小企業向けの支援として十分にできていない部分ではないか。学生も賃金が上がっている大手企業への就職を希望する。大手企業を中心に就職活動が通年化している中で、中小企業はなかなか通年で採用活動をすることは難しいと思う。実際に事業者の皆様はどのように対応されているのか。

[副会長]

・大企業で給与の高い50～60歳台の方がリストラされ、中小企業に応募してくることがある。中小企業には20～30歳代の若手は来ず、採用できてもすぐに退職してしまうなど厳しい状況である。

[委員]

- ・金融機関でも、昔は銀行経験者をパートとして窓口で雇用することが多かったが現在は人が集められない状況。

[委員]

- ・人手不足が一番の課題である。人が入らないから仕事を受けられず、納期に間に合わないから仕事を受けられない。採用しても定着率が低く、より良い企業にすぐ転職してしまう。人手不足・早期退職を防ぐために中小企業でも福利厚生等を充実させたり、事業を合理化しなければいけないが、設備投資にお金がかかるものが増えている。汎用性のある設備を導入しても個人情報漏洩等の問題があるため、独自開発しないといけないという状況である。
- ・最低賃金は東京都で押しなべて同じ金額なので厳しい。三鷹からの企業流出を防ぐための施策を考えていく必要がある。

[委員]

- ・資料1の個別事業の中に「三鷹駅前地区のにぎわいの創出」があるが、店舗の売り上げとまちのにぎわいはイコールではない。イベント等によるにぎわいは必要であるが、一過性であり、個店の売り上げ、一店舗一店舗の支援については、にぎわいだけでは足りない。商店街の店舗で買い物をしてもらうための仕掛けや仕組みづくりが必要ではないか。

[副会長]

- ・行政機関がにぎわいを作り、そのあとは個店の努力が必要ではないかと考える。ホームページやSNSも作成していない事業者について消費者はどのように情報を得るのか。三鷹商工会で勉強会も実施しているため、ぜひ活用していただきたい。株式会社まちづくり三鷹と三鷹市で25商店会に対してヒアリングも実施したので、その内容・問題を抽出して、株式会社まちづくり三鷹、三鷹商工会、三鷹市の三者で展開を考えていくところである。

[委員]

- ・多くの方が大手スーパーやネット通販を利用する中で、まずは商店街にどのような店があり、どのような魅力があるのかを知ってもらうことが大切であると考える。合わせて太陽系スタンプラリーのような、歩いて発見できる体験型の仕掛けがあることで、「行ってみたい」「買い物してみたい」という気持ちにつながると考える。

[事務局]

- ・にぎわいを作っただけで、それぞれの個店が儲かり存続できるわけではないと思うが、市としてそれぞれの商店街について発信を強化していく。今年度も実施予定のみたか太陽系ウォークデジタルスタンプラリーも含め商店街の個店の魅力を市民に広く伝えていきたい。

[委員]

・商店会の立場からいうと、このようにすればうまくいくと分かっていても、高齢化が進んでいるため、実行に移せないという現実的な問題がある。出生率も減少している中、中小企業の採用は依然として厳しく、商店会の存続のために新しい形を考えなければいけない。支援の手を途切れることなく、うまく施策を実行していけるとよい。

【(3) その他 関係団体からの報告】

<三鷹商工会>

- ・第9回三鷹まちゼミについて
- ・第48回みたか商工まつりについて

<まちづくり三鷹>

- ・みたか創業・成長支援アワードについて

【事務局より】

- ・次回開催は任期満了（令和8年7月30日）までの開催を予定している。

3 閉会